

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立高峰中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上アクションプラン」を活用した授業づくりを校内研修や中学校部会を通して職員に共通理解を回り、意識した授業づくりが実践することができた。家庭学習については、課題の提示の仕方や授業で取り扱うなど工夫改善が必要である。</li> <li>学力向上については、「唐津の学びスタイル」をもち、単元による学習計画書の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。以前から取り組んでいることを着実に教師間で協議を重ね、学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行っている。今後、「唐津の学びスタイル」の重点項目を吟味、設定し、授業改善に取り組んでいく。</li> <li>人権向和教育に関する研究授業や研究協議を通して、職員の道徳教育への意識が高まった。来年度も生徒対象の人権集会を実施して、生徒への人権意識の高揚につなげたい。</li> <li>実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきたい。</li> <li>部活動休業日の設定に合わせ、定時退勤日を設けるなど、職員のはたらき方改革への意識を高めることはできたが、さらに勤務分掌の均等化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>夢を語って夢を追う児童生徒の育成</p> <p>「継続」・「挑戦」・「進化」</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校区内の学校連携に根ざした校内研究（キャリア教育・学力向上）の推進</li> <li>○分かる授業の構築と確かな学力の育成</li> <li>○児童会・生徒会活動の活性化</li> <li>○業務改善と働き方改革の推進</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○生徒自身が、自分の考えをまとめ・発表し、質問を受け止め、より深い思考へと発展させるための授業実践	○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と肯定的な回答した生徒85%以上	・校内研修等で「唐津の学びスタイル」を共通化し、個別最適な学びを深める。 ・キャリア教育を柱に、スピーチ集会の持ち方を工夫し、充実を図る。	A	・スピーチ集会では、グループで協力しながらまとめることで、内容を吟味し、伝えたい事柄を精選しICTの活用技術を用いて発表することができた。また、聞き手側も、タブレットを使って積極的に意見を発信する体制を整えたため、自分の考えをもって聞くことができた。アンケートでは、話し合う活動で85%の生徒が肯定的に答えている。 ・「唐津の学びのスタイル」を意識して、めあてとまとめを明示することにより、目的をもって積極的に授業に取り組む姿勢が定着した。	B	・先生方が授業を工夫されているのもよく分かった。引き続き、取組をお願いしたい。 ・家庭学習の習慣化が課題なので、学校で生徒の成長の様子を地域・保護者に積極的に情報発信を行い、地域・家庭と連携しながら取り組んでほしい。 ・また、学習の仕方や課題の提示の仕方を工夫して生徒の学習意欲を高め、学習習慣の定着に取り組んでほしい。 ・授業のゴールを設定し、「何のために学習するのか」やグループ活動を通して自分にもできるという自己肯定感を高め、主体的な学びにつなげてほしい。		
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> <li>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「友達に対して思いやりある態度で接している」と回答した生徒80%以上</li> <li>○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると肯定的に回答した教員80%以上</li> <li>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童生徒80%以上</li> <li>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的に回答した児童生徒70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートを定期的に実施する。</li> <li>・道徳科の授業づくりに関する校内研修等を実施し、指導法を工夫・改善する。</li> <li>・保護者や地域の方と連携した職場体験や産業体験を通して、郷土愛を育む。</li> <li>・全職員で登下校の指導等を行い、見守る体制を整える。</li> <li>・定期的な会議を行い、気になる生徒に関する情報共有を基に、組織的な対応を行い、早期解決につなげる。</li> <li>・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。</li> <li>・学校教育目標に向かって、生徒が主体的に活動する場を設定したり、自主的な活動を学校行事に取り入れたいとするなど、承認する場をより多く設定する。</li> <li>・発達段階に応じた目指す生徒像の系統表を作成し、体験活動やマナー検定やスピーチ集会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A</li> <li>A</li> <li>A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動や外部講師を招いての講話など心を耕す活動が多く取り入れることができた。特に、1、2年生はバス研修で太刀洗平和記念館、3年生は修学旅行で知家特攻平和記念館等に向け、戦争に関する映像や特攻に関する講演による学習を進めることができた。</li> <li>・マナー検定を通して「マナー」「モラル」「ルール」「道徳」「礼儀」「エチケット」「常識」「品格」を調べ、自分の行動を振り返ることができた。</li> <li>・全職員で下校の指導等を行い、生徒の安全確保等の見守り活動を行うことができた。</li> <li>・毎月1の月のこころ」の実施や各学期の教育相談、1日頃の生徒の観察等から、気になる生徒の情報を会議等で共有し、全職員で対応することができた。</li> <li>・生徒が計画・調査・発表等が行える学校行事を催すことで、生徒が自分で考えて行動する体験・集団の中での役割を生徒に与えた。結果生徒の自主性や自己肯定感を高め目標を持って達成することのよさも伝えられた。</li> <li>・マナー検定や面接練習を行うことで生徒が自己分析を行い得意なことや夢について考えるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A</li> <li>A</li> <li>A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳を柱として人権・向和教育を推進されている取組がよく分かった。人権集会等でさらに生徒達に人権意識を深めてほしい。</li> <li>・実際に体験して得るものは大きいので、直接経験させる指導も継続して取り組んでほしい。</li> <li>・いじめは、日常の生活の見守りや定期的なアンケートの結果より気になる生徒の状況を把握し、きめ細やかな指導や支援ができています。</li> <li>・生徒へのきめ細かな対応ができている。また、必要に応じて外部の専門機関等と連携をもち活用していることが分かった。今後とも組織で対応し、個に応じて指導をお願いしたい。</li> <li>・1日頃か善悪の判断や思いやりの心をもつような指導を続けてほしい。</li> <li>・マナー検定やキャリア教育を充実させたことで、自分を認識し、将来どのような道路をとるべきか考えることにつながった。夢をもつことが難しい時代と思うのだが、アンケート結果から6、7割の生徒が夢や目標をもって、学校生活を送ることができていることは素晴らしいことである。</li> <li>・生徒は体を動かし、学ぶことが好きな生徒が多いことが分かった。また、感染症対策や食育の指導等について、しっかり指導してもらっている。家庭の意識も向上している。</li> </ul>		
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「運動習慣の改善や定着化」</li> <li>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒80%以上</li> <li>●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部活動や地域クラブ活動への参加を促し、運動習慣の育成を図る。</li> <li>・昼休みに体育館開放やグラウンド開放を行い、運動に親しみ基盤づくりを行う。</li> <li>・給食だより・保健だよりを発行する。</li> <li>・保健体育科担当と食育担当との連携を進める。</li> <li>・食育資料の情報を発信する。</li> <li>・教科等と連携した食に関する指導に取り組む。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動時間が冬季時間から春季時間へ移行したこともあり、1週間当たりの運動時間は増えている。</li> <li>・部活動の入り口について、年度途中の入部者もあり、運動習慣の改善や定着化に向けた呼びかけの効果がえられる。</li> <li>・昼休みの運動の様子については、多くの生徒が運動に親しみ一方で、道具の片づけやケガなどの問題も見られるため、今以上に委員会活動との結びつきを整備する必要がある。</li> </ul>	A			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○全職員の時間外勤務時間の平均が45時間以内にする。 ○協働的な体制づくりによる組織力の向上。「私は組織に貢献している」という肯定的な割合80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤日の設定</li> <li>・部活動練習計画表を活用し、計画的な部活動休業日の設定する。</li> <li>・校務のデータ化及びICT活用による時間外勤務の適正化を行う。</li> <li>・定期的な会議による情報の共有・共通理解の促進と早期課題対応を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌に係る業務や生徒指導に関することとICTにより可視化を行い、定期的な情報交換を通して早期対応・早期解決を図ることができた。</li> <li>・業務記録については、デジタルコンテンツを使用し、教職員の出勤動向について把握できるように改善を図り、スムーズな勤務時間の管理が行え、月45時間以内を達成することができた。</li> </ul>	B	・校務改善により先生方の負担も改善されてきているが、生徒の教育環境を豊かにするために、先生方が働きやすい環境を継続して整えてほしい。		
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上したと思う」と回答した教員80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上の「生活打ち合わせ」等により生徒の情報共有し、対応をする。</li> <li>・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願い等を情報共有し対応する。</li> <li>・特別支援に関する研修会を1回以上実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週の中学校の連絡会で常に情報交換を行い、支援学級の生徒に限らず、気になる生徒についての共通理解を回り、適切な支援を全職員共通理解して行うことができた。</li> <li>・小学校と合同で特別支援に関する研修会を実施し知識を深めた。特性を理解して知識を向上させることができたことと肯定的な回答が86%あった。</li> </ul>	B	・誰もが人を思いやる気持ちをもた、すべての生徒がいきいきと学校生活が送れるよう今後も細やかな指導をお願いしたい。		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	重点取組内容		成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○キャリア教育	○学校行事と関連づけて、課題発見、調査、まとめ、発表の過程を経て、社会人に必要なスキルを獲得するための教育活動を行う。	○スピーチ集会を行い、生徒全員100%の発表を行わせ、内容とともに、自己の発表の態度も満足度80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を高めるキャリア・マナー検定を実施し、キャリアスキルの向上を図る。</li> <li>・定期的なスピーチ集会を実施する。</li> <li>・授業等におけるキャリア教育の資質・能力を高める学習場面の洗い出しと重点化を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー検定やスピーチ集会を計画的に行い、将来について考える機会をもたせることに成功し、生徒の意識も高まった。</li> <li>・スピーチ集会では、ICT技術の向上とプレゼンテーションの技能を高めることができた。</li> <li>・アンケートでは、将来の夢や目標を持っているかの問いに、60%の生徒が肯定的に答えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と接する上で大切なことを計画的・継続的に学習していることがすばらしい。</li> <li>・中学生で夢をもつことは、難しいことだと思うが、今、好きな事や興味のある事から、目標をもってほしい。また、将来のことを考えるきっかけづくりを学校にぜひ、お願いしたい。</li> </ul>		
○特別活動の充実	○生徒の主体的活動の活性化	○「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と回答する生徒85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒実行委員会による学校行事の実施</li> <li>・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図る。</li> <li>・生徒会本部と連携した専門部活動の充実を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や日々の活動に関する計画・実施を実行委員会形式で行うことで、生徒が主体となって行えるよう仕組み、実行できた。また、実施後に反省も行うことでより内容が洗練された活動を活性化させることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に活躍する場をこれからも多く作ってほしい。子どもにたくましさや身につけさせてほしい。</li> <li>・生徒に出席を与え、生徒一人一人が満足できる場の設定をこれからもお願いしたい。</li> </ul>		

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</li> <li>・「学力向上アクションプラン」を活用した授業づくりを校内研修や中学校部会を通して職員に共通理解を回り、意識した授業づくりが実践することができた。家庭学習については、定期的なアンケートや具体的な実践結果を基に習慣化を図ることが必要である。</li> <li>・学力向上については、「唐津の学びスタイル」を基に、単元学習計画書の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。「唐津の学びスタイル」の重点項目を吟味、設定し、授業改善に取り組んだ。学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行っている。今後、学習の意識化を図るために、教師の役割について再確認し、「つなぐ」、「もどす」活動を取り入れる等、校内研究を進めていく必要がある。</li> <li>・生徒に「ほめる」ことを意識して教師が指導したことで、生徒の自己肯定感が高まり、人権意識の向上につながった。また、人権向和教育担当が、担任と連携し、計画的に研究授業を行ったことで、生徒や職員の人権意識の向上を図ることができた。</li> <li>・実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきたい。</li> <li>・組織的な対応を行ったことで、校務の効率化を推進し、職員の働き方改革への意識を高めることができた。さらに勤務分掌において、負担の平準化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。</li> </ul>
----------------	--